

— 私たちにできること 一歩ずつ 少しずつ —

08

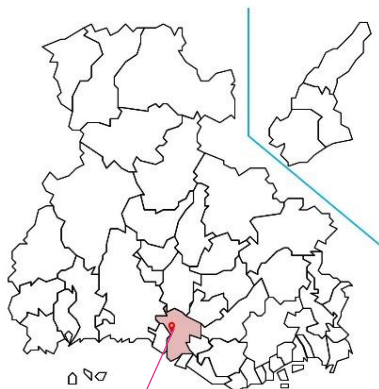
一般社団法人ひょうご若者 自立支援センター

農福連携

企業との
連携

地産地消

荒廃農地
対策



加古川市



R4年度種まきの様子



R4年度綿の摘みとり



ジンニングマシンで綿と種の分別

概要

- ・休耕田を利用して地場産業の復活に力を注ぐ、綿花の栽培・コットン製品の企画販売を手掛ける「かこっとな株式会社」と工賃の安定増収を図る就労継続支援B型事業所「アンソレイエ・レーヴ」による農福連携を令和3年4月に開始。
- ・綿花は栽培しやすく収穫量も安定しており、最重要課題である販売先が決まっている点も大きなメリット。
- ・「環境保全」「地場産業の復活」「伝統文化の継承」「地域貢献」となるこの取組には地元のマスコミも注目。

成果

- ・「綿」を触媒として、農業・工業・商業・地域社会・福祉に携わる人たちが協力し合い、それぞれのコミュニティの強みを活かすことが可能となっている。
- ・障害者は「支えられる立場」と認識されがちだが、この取組に参加しモノづくりの根幹に携わることにより、支える立場となっている。

○綿花の栽培状況(R5は見込み)

作付面積 1,000㎡(R3)→2,000㎡(R5)

収穫量 40kg(R3)→80kg(R5)

○第2回ひょうご農福連携コンテストにおいてグランプリ受賞(令和5年1月)